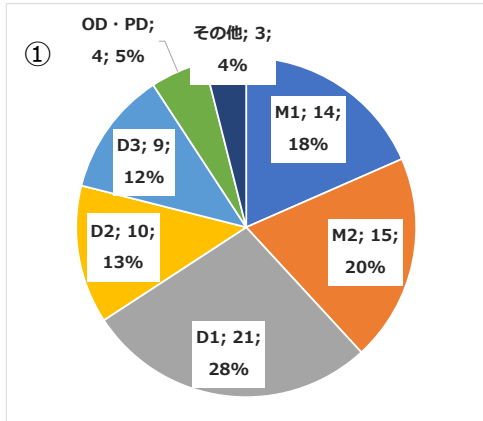


## 1 事前申込者数/当日参加者数と事前アンケート結果

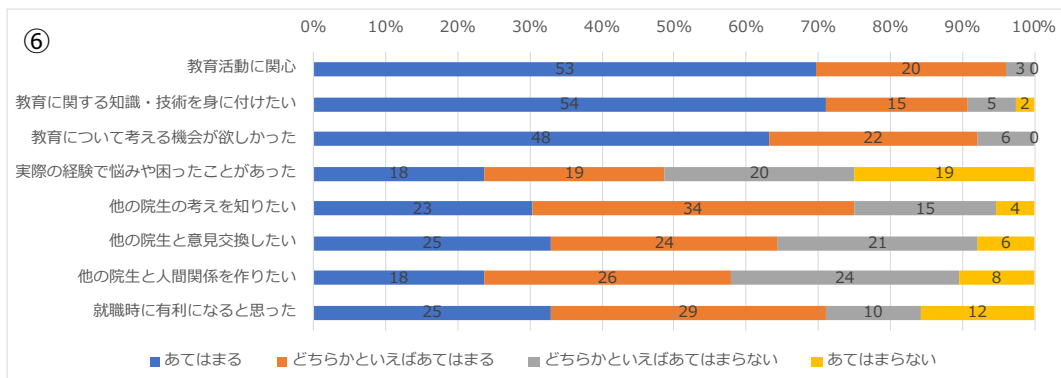
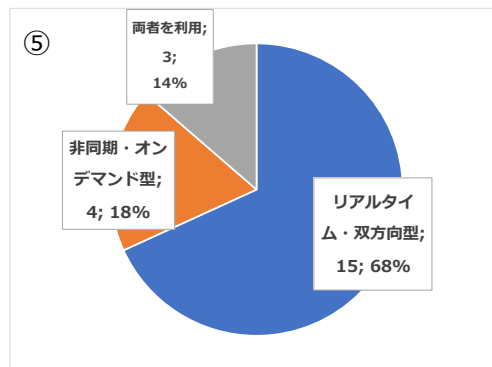
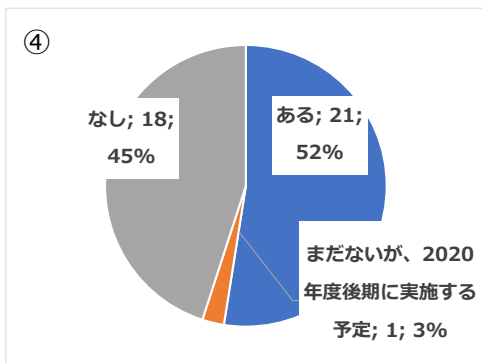
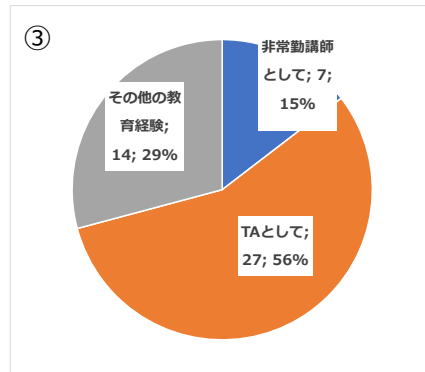
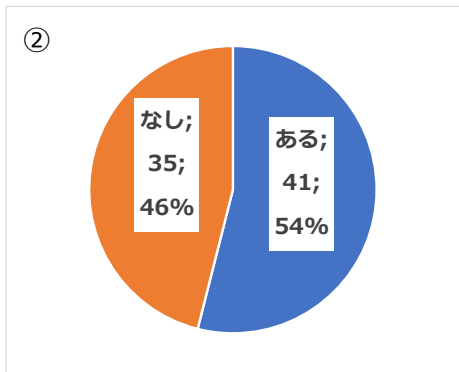
(1) 事前申込者数：76名/当日参加者数：59名

(2) 事前アンケートの結果 (事前申込者数76名分を整理)



グラフタイトル

- ① 学年
- ② 教育経験の有無
- ③ 教育経験有りの場合、その立場
- ④ オンライン授業実施経験 (TA等として含む) の有無
- ⑤ オンライン授業実施経験有りの場合、その形式
- ⑥ 参加動機



## 2 当日参加者数と事後アンケート結果

当日参加者数：59名（オブザーバー参加3名含む）

事後アンケートの結果（回答者数：47／回答率：80％）について

### Q. 2 満足度 全体：4.8（昨年に比べて0.2上昇）

（参考）過去5年間の満足度・有意義度（Q. 4）の平均の推移

	回答者数	1：全体	2：ミニ講義1	3：CD	4：ミニ講義2	5：グループ討論	6：発表
2016	－	4.2	4.2	4.4	4.2	4.2	－
2017	20	4.8	4.9	4.7	4.7	4.6	－
2018	27	4.7	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7
2019	32	4.6	4.6	4.8	3.9	4.5	4.6
2020	47	4.8	4.5	－	4.6	4.6	4.4

※「1：全体」は満足度を「2：ミニ講義1」～「6：発表」までは有意義度を5件法で聞いている

※「CD」は「コミュニケーションデザイン」の略

※2016年度は、ミニ講義についてはまとめて質問しており、表中「2：ミニ講義1」と「4：ミニ講義2」は合わせたの数値

※「6：発表」について、2016～2019年度まではポスター発表の形式、2020年度はオンライン上での発表・討論

### Q. 3 満足度の理由に関する回答の一覧（自由記述、回答数：47）

<p>いっぱい素晴らしい考え方が得られた</p> <p>教える立場になったことがないので、実践を通して学ばせていただいたことが多かったのですが、理論的なものももうちょっと知りたかったです。色々な議論やディスカッションができ、結構勉強になりました。また、自分が所属していない部会の内容も聞かれることが大変良かったと思います。</p> <p>グループワークでのディスカッションが満足しきれない部分があったため。</p> <p>大学教育のあり方についてほとんど知識がなかったので、それらを考えるきっかけとなった。さらに、授業方法のバリエーションについても知ることができたのはよかった。</p> <p>大学の教壇に立つことについて、初めて自分なりに考え、また色々なバックグラウンドを持つ人の意見を聞けたのは有意義だった。</p> <p>長時間にもかかわらず、グループディスカッションやミニ講義などの配分が適度に集中が続くプログラムになっていたので。内容も、具体的に理解しやすかったです。また斎藤先生の講義がアクティブラーニングの問題点（反論点？）についても扱っていたことで、全体としてバランスの良い知識や心構えを得ることができたと感じています。</p> <p>ミニ講義で最新の理論や事例を学ぶことができたうえに、各部会に分かれて興味のあるテーマについてディスカッションを通して理解を深めることができたので、非常に満足しています。ただ、他の部会の内容も非常に面白そうに感じたので、もっと違う部会の意見も見てみたかったという気持ちはありません。</p> <p>アクティブラーニングについて、自身の見識を深められたとともに、様々な方の意見を伺うことができたため</p> <p>教育の方法を大学で学ぶ機会は非常に珍しいため</p> <p>自分の取り組んだ内容についての考えは深まったが、他のテーマの理解ももっと深めたいと考えたから。</p> <p>知らなかったツールの知識が得られた。</p> <p>講義やグループワークなどの豊富な取り組みを通じて、将来大学での教育に関わるうえで必要となるであろう基本的な知識、考え方、留意すべき点などを、主体的に学ぶことができたため。</p> <p>個人的な理由です。「私が」どういう授業を提供したいか を次回はよくイメージした上で参加すればより有意義になるとおもった。</p> <p>新しいメソッドを学んだ点とそれをツールとして使える技術や精神を学べた点から</p> <p>グループワークを通じて授業で使えるICTについて学べたため。</p> <p>院生と話し合いながら進めるワークの中で、新しい気づきが多かったため</p> <p>多様な考えを聞くことができたから</p> <p>教える側としての大学授業を深く考えることは初めてで、新鮮だった</p> <p>自分にとっては、ICTのことに関して詳しくなかったが、考えてみる切っ掛けになった。そして、最初の松下先生の講義がすごく有益であった。</p> <p>グループディスカッションでなかなかうまく議論ができなかったように思ったから。ミニ講義は有意義でした。</p> <p>グループ発表は、たくさんの意見が拝聴できて有意義でした。</p> <p>他部会でこういった取り組み、討論がなされる予定か、事前に資料を確認しきれず発表会を聞いたため、やや消化不良でした。他は満足しています。</p> <p>ディスカッションが多くて、考える時間が多かった</p> <p>普段話す機会のない他研究科の同世代の人とディスカッション出来たことは非常に良い経験だった。</p> <p>それぞれのワークは有意義なものであったが全体の趣旨がやや曖昧であったように感じた。</p> <p>想像していたよりも、かなり充実しており、大変満足しております。特に部会でのグループワークや、ミニ講義が大変ためになりました。</p> <p>一人では気づきようのなかった視点をグループワークにて得ることが出来たから。</p> <p>時間が足りなかった。オンラインの限界を感じた。</p> <p>マイナスの多様性についてなにも言えてない</p> <p>できるだけ自分の意見をシェアして、皆さんのフィードバックをもらえるようなディスカッションを体験しました。</p> <p>多角度の意見を聞かせていただくことができ、視野を広げました。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">続</div>
--	--

I would like to learn the methods and necessary preparation for teaching in university education in Japan because I would like to become a lecturer
討論を通じて色々な方からの意見をゲットできた
どうすれば学生が興味を持ってくれるか、授業に飽きないか、教員が最も伝えるべきことは何かなどについて、さまざまな視点から考えることが重要だと学ぶことができたから。
今まで見様見真似で作っていたシラバスや授業づくりについてたくさんの気づきがあり、講義もグループワークもとても勉強になりました。一日だけの講座にもかかわらず非常に多いものとなり、参加して本当に良かったです。ありがとうございました。
理論的に授業設計について学ぶことができたため。また、複数人で議論することにより、視野が広がったと感じたため。
オンラインで本講座に参加した経験は今後にかすことができる。しかし、グループ討論を充実させることができなかつた（グループ員の機器不具合）。
「授業デザイン」を受講したが、私もこんなふうに授業をつくってみたい！とモチベーションが大いに上がったため。また他の研究分野の学生の発表を聞くことができたことも、大変刺激になったため。
多様性の重要性を実感できたから
どのような授業をすれば学生にとって面白いかという議論を深くでき、授業に限らず、発表などでもどのように作っていくか考えるきっかけになった。
他の院生と意見交換することで、共有できるものがあつたため。
このような講義を受けること自体が初めてで、非常に新鮮でした。大変参考になりました。ありがとうございました。
1日のプログラムではあつたものの、複数の視点から「大学で教えるということ」について考える機会をいただき、大変ありがたかつたです。事前に資料が開示されて、自分で部会を選ぶ（第1希望～第3希望など）形になっていれば、またよかつたかもしれないと思います。
オンラインで長丁場にも関わらず、集中を切らさずに参加できる環境を用意していただいたため。
講義では基礎的な内容から具体例まで幅広く扱われており、グループワークではファシリテータの方から意見をいただいたりディスカッションをしたりする機会が多く、実践的で勉強になったので。
グループディスカッションで大変有意義な議論ができた。先生方のアドバイスも的確でよかつた。

- (+) 視野が広がつた／実践を通じて考えられた／ディスカッションで有意義な議論ができた／教壇に立つことを初めてイメージするとともに、他の人からの意見がもらえたのがよかつた／新しいツール
- (-) オンラインでディスカッションが難しかつた／時間が足りなかつた／事前に部会の内容を知ることができるとよかつた／理論面でもう少し情報が欲しかつた

## Q. 5 大学教育に対する問題意識・対応策の変化に関する回答の一覧（自由記述、回答数：39）

Q5. 本講座を通して、あなたの大学教育に関する問題意識やそれへの対応策の考えは変化しましたか。もし変化したのであれば、どのような変化があつたのかお書きください。
状況についていろいろ授業形式を活用するように考える。 授業の目的に沿って授業を設計することの大切さを知つたのと、アクティブラーニングという概念は思つてたより広く、理系でもクイズのような形で取り入れることができることが本講座で知れてかなり興味深いです
学生が受動的から積極的に変わる可能性があります、ガイドする人が必要だと思つた。なので、先生や教員たちの工夫により、学生に大きい影響を与えると思つきました。
事前課題で感じていたALのデメリットについて、改善策を話し合ふことができ、自分が教える立場になつた時にも少しは活かせようと思つた。
大学教育は「社会」との接続という意味で重要だと考えていたが、学部の授業を想定すると、その後の進路は、学部卒業後に就職する人もいれば、大学院進学（その後就職する人または研究者を目指す人）と「社会」との関係もひとつくりにはできないとあらためて思うようになった。大学教育は、中・高の教育と比べて教員側の自由度が高いと思つたが、研究者でもある大学教員が「社会」との関わりを意識した上で、授業の目的をしっかりと定めることがより重要になるのではと思つた。
大学への入学者数と大学の役割の関係は新鮮だつた。京都大学にいて「エリート教育」を当然のものと考えてしまいがちだが、よりその他の役割もあることを認識した。
自身は文系の講義に対する知識しかありませんでしたが、他の分野（特に理系）の方のご意見や実際の講義形態について知ることができたという変化があります。また、自身はアクティブラーニング部会に参加しましたが、最終発表を見ることで授業デザインの方法やさまざまなツールについて知らなかつたものを知ることができました。
問題意識という訳ではありませんが、齋藤先生の講義でお話されていた「考えて疲れさせる」という考え方が、まさに探求する面白さを表してて素敵だと思つきました。講義の資料やグループワークでも話になりましたが、学習者に最適な学びを生み出すためには、授業の設計がとても大事であり、どんな問いかけをして、どのような負荷（実践の場）を設けるのかをイメージしておくことが大事だと考えました。
大学教育についてあまり深く考えたことがなかつたが、講座を通じて様々な問題を抱えていることを知り、「自分ならこのようにして解決したい」というビジョンで考えるようになった。 分野によって問題意識が異なることが分かつた
これまでは大学教育について特に考えを持っていませんでしたが、学生主体へという大きな転換があるということを認識しました。
変化した。自分がそれまで想像していたよりも、大学教育の問題には諸相があり、それらをうまく切り分けて対応をとる必要があるということを知りました。
多様性については問題意識を持つべきポイントがわかり参考になつた一方、対応策例が無かつたので今すぐに改善するというのは難しいと思つた。（もちろん例を出すのが簡単な問題ではないとは知っております。）
ツールに引張られるのではなく、教育のマインドを学べたこと。 自分が普段使わないICTの利便性を知ることができたので、今後活用しようと思つた
これまで経験してきた様々な授業を振り返ることができ、その時の先生の授業デザインはこれのためだつたのかなど考えることができた。 あつた。いままで研究だけ考えてきたが大学教員になるにはよほどの準備が必要を知ることができるようになつた。
多様性部会を選択しましたが、この講座を受講する人のモチベーションにも多様性があるなと思つきました。なかなかグループディスカッションが盛り上がりだせず終わつてしまふ、どうすればうまくいったかな...と反省するとともに、モチベーションにもよるかな...とも思つきました。 「学生主体の」教育へ変えていく必要があると思つますが、そもそも大学に学生自身が教育を求めていない場合もあります。本当に学びたい学生、なんとなく大学に来た学生、就職の際のブランドを求めてきた学生、それぞれのニーズに合わせた教育の展開が必要だろうなと思つきましたが、特に京大のような研究大学で、それがどこまで達成されるのか、教員の中での意識が共有されるものなのか、先生方の意見をもっと聞きたいと思つきました。
多様性の考え方が広がつた。

続

大学教育全体について、体系的に話を聞いたり学んだりしたことがなかったので、問題意識がより具体的なものとなったと思う。
工学や理系的な観点だけではなく、法学など違った観点を考えることが出来た。
特になし。ただ、教員として教えることに対して、前向きな気持ちになりました。
大学の教員・職員側の多様性というのは新しい発見・問題提起であった。確かに、実務家教員など、教員側にも多様化は起こっていて、そこで捉えられるべき問題もあるように思う。
特になし。
けれど、自分の中の案の肉付けはたくさんできた。
マイナスの多様性についてだれも考えてない
大学教育における多様性対応の必要性を反省するようになりました。
I like the concept of active learning and the methods of class design
学生目線、初学目線の大切さを再認識出来ました。自分は好きで専門分野の研究をしているけれど、相手にする学生たちは自分の専門分野にそこまで理解も興味もないことも多く、それを想定した上で、いかに興味を持ってもらうか、身近な学問としてとらえてもらえるか、という工夫をこれからも模索していきたいと思いました。
大学教育における現状と課題について、整理された。また、オンライン授業の特色なども考えることができた。
特になし。(2回目の参加であったこともあり、問題意識に変化がないことを確認しました。)
今までは、「学生」側の立場からしか大学教育について考えてこなかったが、本講座を受講して、「教員」側もさまざまな工夫を凝らし、努力されていることを知ることができました。大学は、まずもって研究機関であり、大学が提供する「教育」とは何なのか、そもそもそれは学生に期待されていることなのかと自問しておりましたが、創造性ゆたかな学知を学生や社会に開いていくために、よりよい「教育」体制への絶え間ない議論が不可欠だと思うようになりました。
社会人経験がある自分と学生経験のみの方では教えようとする内容に違いがあることに気づかれ、学問の教育と社会に出てから必要なスキルの教育を学生に合わせながら授業デザインを再検討する必要があると感じた。
聞き手目線で何をj持jて帰ることのできる授業かを一番に考えるよう、意識したいと思った。
講座設計においてより学生側を配慮すべき点と、具体的なその方策。
大学で「教える」ということがより明確になったかと思jいます。
教育をより良いものにしていくにあたり、教員個人としての取り組みの次には、部局ごと・大学ごとの取り組みが必要だと実感しました。しかし、現状ではそれに必要な人員や資金が不足しているのではないかと感じており、自分のファンドレイジングという専門分野が貢献できるかもしれないと考えるようになりました。また、どちらかというと研究に関心があり、教育(社会人向け)がその次、そして学部生向けの教育には正直なところ関心がなかったのですが、今回のワークを通じて学部生向けの教育もおもしろそうだ、という感覚を持つことができたのは大きな変化でした。
自分の研究のことで日々頭がいっぱいな一方、就職に向けても動かなければならないと考えていた。本講座はその橋渡しとして、とても有意義でした。授業デザイン部会はとくに、教授経験のない者にとっても取り組みやすい内容でした(その分とても難しかったです)。実際に非常勤講師をされている方とお会いできたことや、大学教育の全体について講義で学ぶことができる、将来像がすこし明確になりました。
学部、大学院と授業を受けてきたにもかかわらず知らなかった教え方がたくさん紹介されており、教師側にも精通している人が少ないのではないかと感じました。時代とともに大学教育も変化しているというお話もあったので、積極的かつ継続的に学んでいきたいと思いました。
授業の組み立てにあたって、大学生目線で考えることは新鮮であった。「知ってほしいこと」を山積みにするのではなく、「何を身に着けて欲しいのか」「何を持ち帰ってほしいのか」に絞ることで、授業の焦点が決まり、まとまりのある15回の講義ができるように感じた。

## Q. 6 他にどんな取り組みがあると良いかに関する回答の一覧(自由記述、回答数: 30)

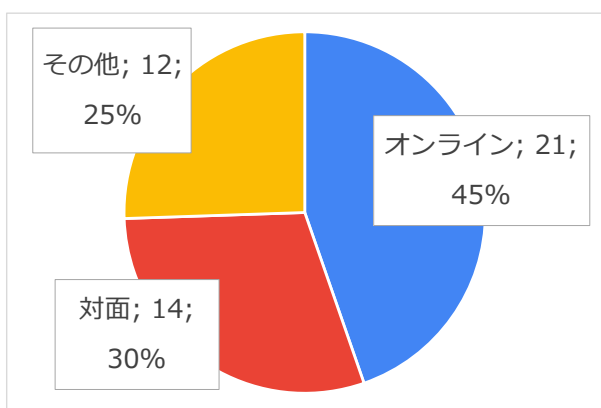
Q6. 本講座のような大学院生を対象とした取り組みについて、他にどんな取り組みがあるとよいと思jいますか。具体的にご意見をお聞かせください。
この講座は結構良かったと思jいます。様々な議論ができ、グループメンバーも色々な分野から来まして、自分とは異なる経験も聞かれることは良かったと思jいます。
教職課程で義務付けられている教育実習のように、大学で教える場合についても、学部生を対象とした実習の場が欲しい。
院生であれば、アクティブラーニングを取り入れた授業を学習者として受講したうえで、教員側の視点も学ぶという取り組み。
アカデミックポストに就くための方法論を教えてください。どこで情報を得て、どのような志願書を書き、模擬授業や面接ではどう振る舞うのが良いのかを教えてください。
特に修士学生に対しての、博士課程進学を考える取り組み。
講義の実践的な場を作る
今回は大学教員の教育の面についてでしたが、キャリアや教育と研究のバランスについても知りたいと思jいました。
より実践に近い講習があると良いと思jいます。
今回の講座で学んだ内容は、当然ながらあらゆる専門分野の教育に役立つ内容だったが、文系・理系、あるいは各研究科など、専門分野特有の、教育に関する問題やそれへの対処を学べる取り組みがあるとなおよいと思jう。また、今回の講座のグループワークで利用したように、現在では教育や研究に役立つICTツールが多く、それを体験する機会があってもよいと思jう。
実際の先生方の授業に参加してみたいです。
この取り組みの数日間のプログラムが開催予定とのことでしたが、とても良い機会だと思います。
大学院生が実際に授業をするという取り組みをしている研究科多くあると思jいますが、自分の指導教員だけでなく、授業デザインなどを専門とされている先生に相談ができたりするシステムがあればいいと思jいました。
異なる分野の人たちとの意見交換ができると視野が広がる。
インターンシップを積極的に参加できる環境を整えてほしい。
授業で教えることをより実践的に体験できたらよいと思jいます。
(既にあると思われませんが)論文の書き方や研究の進め方講座
社会課題ごとに討論できる機会、特にそれぞれの学問の視点を交わす機会が多いと有意義だと思います。
先生と学生の両方を対象に、教育の提供側と受け入れ側との差異を比較する。

続

Nothing in particular
今回の講座を受けて実際に授業を体験してみたいと思ったため、そのような機会があればさらに良いと思った。
同内容でもいいですが、他の部会にも出てみたかったので、複数回開催していただけるとありがたいと思いました。あとは、半気通しては無く、1回ずつの授業構成をもっと具体的に考えるアクティビティもあると嬉しいです。
他分野の研究者に対して、わかりやすく説明する機会があると良いと思います。教員経験のあるかたや、社会経験のある方々は他分野の人間に対してかみ砕いて話すことに慣れていらっしゃると思いますが、修士の大学院生や、学部卒の参加者は、テクニカルコミュニケーションを養う必要があるかもしれないと感じました。教員になる前に、そのような機会があると、心構えができて安心するのではないのでしょうか。
文系と理系間の研究交流会。
一定数の学生にとって就職は現実の課題です。特に文系就職については社会に出てから大学で学んだことがあまり役に立たないと言われています。しかしながら、どんな学びでも社会に出てから役に立つはずで。この点は教員側がビジネス界に出た場合、どのような点で役に立つのかを「気づかせる」デザインが必要だとしています。文理融合での今回の取り組みの良い点もありますが、逆に文理別でしかも就職をイメージした学生を指導する大学院生の講座もあればよいかもしれません。
今後のキャリアのイメージをできるような取り組み。単純に異分野の学生と研究を紹介しあうような取り組み。
他の院生や若手の研究者と情報共有できる機会
現行の学びコーディネーターなどのプログラムで良いと思っています。
大学院に進む学生に対して、教育スキル・研究スキルをつけるだけでなく、研究能力をどう教育に活かすか、教育活動がどう研究に生きるか、といった相乗効果を生むようなプログラムがあるとよいと思いました。教育と研究がバランスの問題、トレードオフの問題としてとらえられておりますが、本来的には相乗効果を目指すべきだと思っています。
授業デザイン部会のような企画が、定期的にあれば嬉しいです。 非常勤講師や助教の方のような、若手研究者のキャリアを知ることのできる機会もあれば嬉しいです(分野外の方にはなかなか会えないためです)。
社会人大学院生による官公庁・企業・社会人への「大学院のすすめ」的イベント。日本ではまだまだ少ないので、所属企業からの授業料の補助や官公庁の助成金を出して社会人が働きながら研究できる体制ができれば、再度研究をしたいと考えている優秀な社会人が戻ってこれる。

出てきた要望：学部生相手の模擬授業の場／授業デザインについて専門家に相談できる場／異分野間交流の場／複数回の開催／専門別の講座／キャリアを考える・知ることのできるイベント／研究の進め方講座

#### Q. 7 オンラインか対面かに関する要望（選択式、回答数：47）



「その他」の回答（自由記述）：

- ・両方：4名
- ・適宜使い分けを：3名
- ・どちらでも：2名
- ・併用もしくは選択したい：2名
- ・どちらかという対面：1名

・オンラインを希望する理由（自由記述、回答数：21）

Q8. Q.7について、そう答えた理由をお聞かせください。
コミュニケーション力が鍛えられるのと、対面よりは気楽に参加できる気がするので、オンラインでの実施を続けて欲しいです。
対面で実施することがもっと議論できると思いますが、オンラインの方が場所の制限、交通や準備作業時間、コスト(会場の電気や配布資料など)などの点見ると、続けることができるなら、いいじゃないかと思います。
実家から二時間かけて通学しているため（また、場合によってはさらに遠い地域に滞在していることも多いため）、オンライン実施の方が参加しやすいと感じています。また、対面よりオンライン参加の方が個人的には参加のハードルが低く感じられました。
手軽に参加できるため。
オンラインでもそれほど不自由を感じることなく参加できたからです
吉田キャンパス以外（桂）に所属しているため。
オンラインのほうが雑談も少なく発言しやすいから
移動時間なく参加できるため
オンラインの利便性(チャットでの質問、スムーズな部会への移行など)が受講者としては魅力に感じたため
意見交換がしやすかった。
参加しやすいため
参加しやすいから。
海外での調査が多いため
時間の管理がよりスムーズ。多少押ししまわっていても、その場の雰囲気に関わることなく時間厳守で進行できる。
安全・楽
オンラインのほうが参加へのハードルが低いから。
今回オンラインで参加して特に問題がなかったし、対面よりも時間や場所に縛られず参加できるから。また、今後大学教育においてオンライン授業の重要性が増していくと考えると、オンライン環境でのディスカッションやファシリテートに慣れる良い機会だと思うから。
適度にリラックスして、受講できる。また、質問や発言への心理的なハードルが低くなるので、ありがたいです。
スケジュール上、対応しやすくなると考えたから。
対面が良いと思いましたが、ディスカッションはオンラインの方がはかどるような気もしました。
オンラインでも特にストレスに感じる事がなく、また、（必ずしもオンラインである必要はないと思いますが、）チャットを使ってリアルタイムで質問や反応を見れるのがよいと思ったから。

参加ハードルが下がる／移動の手間減る／桂所属／安全／リラックスできる／チャットの利便性

・対面を希望する理由（自由記述、回答数：14）

Q8. Q.7について、そう答えた理由をお聞かせください。
交流がもっと便利だと思います
グループワークはオンラインでも十分に可能であったが、対面の方がより効率的な議論ができるのではないと思った。
次年度以降、大学の授業の多くが従来の対面に戻るのであれば、やはり対面での講座のほうがよいのではないかと。ただし、ICTを活用した授業などのテーマを取り上げるのであれば、オンラインの実施のほうが良いと思う。
オンラインでも議論はできたが、対面の方が話しやすい。
対面の方が得られる情報量は多いと思うから。
グループディスカッションのファシリテートをもっと加える方法があるなら、オンラインでもよいと思います。
1つのデスクトップ上で複数の資料を参照する作業が大変だった。
せっかくの一期一会なので、対面で実施されればオンラインより友達になりやすいと思います。
オンライン環境だとパソコンの操作が一部の注意を引いてしまいます。
Because face-to-face discussion has its own advantages such as active discussion with teachers and participants
通信環境によって繋がらないときもあったから
今回、オンライン開催でも十分に充実した時間だったが、対面でおこなえば、グループワークで知り合った方々ともっと交流できたのではと思ったため。私のグループでは、一人、通信環境が不安定な方がおり、その方と十分な交流ができなくて残念だったため。
オンライン、対面いずれもメリット、デメリットがありますが、教えるという仕事は対面の方が効果があると感じるからです。コミュニケーションをデジタル信号で感じるのと、体で直接感じる振動を通じた感じ方では違いがあるような気がするからです。
討論中オンラインだと手間取るように感じた点と画面を見続けることに対する疲労感。

話しやすさ・交流のしやすさ／パソコン操作の不便さ／通信環境の問題／対面での身体性を評価

・その他を希望する理由（自由記述、回答数：12）

Q7. 今年度はオンラインでの実施となりました。このさき対面での実施	Q8. Q.7について、そう答えた理由をお聞かせください。
その時のプログラムの目標や内容に応じて、対面かオンラインか適切に判断頂ければと思います。	オンラインは非常に便利で、職場から移動することなく出席できたことが参加できた要因になります。一方で、懇親会に出れなかったこともあり、ワークの時間が短めに設定されていたこともあり、参加者同士での自己紹介や研究状況を伺うなどの雑談はできませんでした。そういった理由もあり、対面かオンラインのどちらが良いというのを決めてしまうことは難しかったです。その時の目的や実施内容に応じて、最良と思われる実施形態にして頂ければ良いかと思います。
両方	それぞれにいい点があるため
併用	両方の長所を生かす方向性はないだろうかと思われました。
両方あればよいと思います。	これからは複数のツールが必要になると思うので。
どちらでもよいと思われる。	会場にビデオを設置することで、オンラインと対面を融合するような形もでき、Flippedのようにも実践したら、時間削減ができるかもしれない。
ICTにおいてはかなりオンラインでの実施が有益だったが、ほかの部門に関してはまだまだ対面のほうがいいかなと考えられる。	ICTの場合、知らないICTに関してすぐ調べたり、利用してみることができたため
対面でもオンラインでも参加できるとよいかと思います	夏休み期間中の開催のため、対面だと帰省中・留学中・フィールドワーク中等の学生の参加が困難なため。ただし、対面開催の利点もあることを考えると、どちらからも参加可能が理想的だと考えました。
オンラインと対面を選択できると良い。	研究室で、オンライン対面併用の討論会を行なっているが、参加者の数、発言の数等のいいとこ取りが出来ているので、規模が異なるのでなんとも言えないが、併用も検討に値するのではないかと。
どちらにもメリットがあるので、どちらでも結構です。	教員を目指し講義形式の習得も兼ねて参加することを前提とすると、どちらも経験しておいた方がいいと考えるからです。
目的や状況に応じて開催方法を分ける	COVID-19下では当然ながらオンラインが良いと思います。また、時間を短くしてより多くの大学院生向けにオンラインで実施する入口的なプログラムと、より強い関心を持つ院生に対して対面での1日プログラム、集中講義などを用意するのが良いように思いました。
対面が良いと思うが、今回の内容が不十分という訳ではないです。	対面の方が知り合いを増やせたり、講師やTAの方により気軽に質問できると考えるためです。
両方	対面の臨場感も捨てがたいが、オンラインは参加しやすい。選択できるようなシステムにしてほしい。

どちらも良いところがあるので、選ぶ方式か両方実施するかにして欲しい

Q.9 その他要望（自由記述、回答数：21）

Q9. その他に、ご意見（良かった点や悪かった点、改善点等）がありましたらお聞かせください。

特になし

- ・事前の準備が丁寧になされたため、非常に円滑な進行になっており、よかった。
- ・部会の担当の先生およびTAの方の進行と質問対応が非常に丁寧だった。
- ・時間の都合上やむなく省略されたのかもしれないが、個別のグループの発表に対して、部会の担当の先生から講評を得られるとよかったと思う。
- ・公平性を重視してのことかと思うが、全体会での発表を担当するグループを参加者による投票にするのは、逆に公平ではないと思った（グループのメンバー数に差があったため）。評価基準を決めて、先生の講評を踏まえて選ばれるとよりよかったのではないかと思います。ただ、ZOOMの投票機能を利用したのが初めてだったので、その点では勉強になった。
- ・質問を集める際にslido等の匿名でも質問できるツールの使用があれば、参加者からの質問をより集めやすかったのではないかと思います。

初めてのオンライン開催ということで事務局のみなさまはご準備が大変だったかと思います。本当にありがとうございました。お陰様で、非常に学びの多い、良い機会になったと思います。事務的なことで恐縮ですが、各部会のZoomURLは、移動するタイミングでメッセージで共有いただくか、メール本文か別資料にして通知頂けると良いかと思いました。セミナー資料を読みながら参加していましたので、会を移動する度に、ページ位置を直すのに手間取ってしまいました。同様の理由が分かりませんが、参加者が別のルームに移動する時に、全員が揃うのに時間がかかっていたので、少し勿体ないと思いました。以上です。ありがとうございました。

オンラインで良くまとめたと思う もう一日かけて実際の講義をさせてもいいと思う

今回、講座の内容に加えて、こうした講座の運営実施がどのように行われるかについても興味を持って参加しましたが、よく計画されていてとても参考になりました。

良かった点→実践的な内容であった。改善→時間管理。

特になし  
ありがとうございました

非常に有益で面白かった。

- ・大学院生の間に、大学教育を考える機会があるのはとても大切だと感じました。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。
- ・大変有意義な講座なので、盛り上がり過ぎて時間が押すことは重々承知でしたが、それを見越して時間設定していただけるとありがたいなと思いました。私は子どもがいるので、保育園のお迎えが伝えていた時間に遅れてしまいました。個人の都合ではありますが、「多様性」を一つのテーマに取り上げている会なので、ご配慮いただけたらと助かる人もいるのではないかと感じました（最後に鈴木先生が声かけされていましたが、どの時点まで参加すれば修了証が授与されるなど、あらかじめ明示していただけたらよかったと思います）。
- ・主になる先生の電話対応で全体会が進まないというのは、なかなか共感しにくい部分のように感じました。

続

<p>聴きごたえがありました。 資料など事前準備がきちんとされておりよかったです。ありがとうございました。</p>
<p>事前課題について、参考資料あるいは事例を提示していただけたらより方向性のある準備ができると思います。</p>
<p>このコロナ禍だからその教育の在り方について考えることができ、現状を前向きに捉えることにも繋がりました。貴重な機会を作ってください感謝申し上げます。</p>
<p>グループ4に参加しましたが、グループ全員の授業構成を考えられるようにディスカッションの時間ももっと欲しかったです。後期に2日間の講座があるそうですが、半期の講座があればぜひ受けてみたいと思いました。</p>
<p>全体ではファシリテータの鈴木様、グループ討論ではTAさん、のご活躍が印象に残っています。オンラインでスムーズに進行させるには欠かせないであろう役割が浮き彫りになっていたと思います。</p>
<p>当初は、オンライン開催ということで不安な気持ちがありましたが、先生方、スタッフのみなさまが真摯に、また楽しく講座を運営してくださったおかげで、こちらも気分が乗り、楽しく受講できました。また、グループワークも、用意してくださったツールを駆使して実りある議論を展開できました。どうもありがとうございました！</p>
<p>初めてのZOOMでの開催準備お疲れ様でした。イベントは準備が結果を左右すると言われます。非常にスムーズな運営だったと思います。</p>
<p>オンライン上での構成がスムーズだったと思います。</p>
<p>素晴らしいプログラムだと思います。一方で、市場（学生や社会）のニーズに対応するための研修だけでなく、本来の教育はどうあるべきか・長期的に教育をどうしていくべきか、といった（素人発想かつ青臭くて恐縮ですが）議論もあってよいのではと思いました。</p>
<p>修士・博士の進学を迷っていた時期に、このような講座があると知っていたら悩みが減ったかもしれないと思いました。研究することと教授すること(プラス社会に訴えていくこと)それぞれに十分な環境があることが京大の強みだと思います。 お忙しい中、企画から運営までありがとうございました。</p>
<p>とても勉強になりました。参加部会以外のトピックも面白かったです。</p>

(+) プログラム構成／丁寧な準備／講師・TA・スタッフの対応／運営面（事前・当日）

(-) 時間／部会の議論まとめについて担当講師の評価が欲しかった／Zoom URL 単体も合わせて欲しかった